

平成29年度 全国学力・学習状況調査

大阪市の結果概要

大阪市教育局

■ 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、大阪市教育局振興基本計画に基づく教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日時 平成29年4月18日(火)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

- ・小学校 291校、17,384人
- ・中学校 131校、16,885人

■ 教科に関する調査結果の概要 ※http://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/factsheet/17prefecture-City/513_osaka/index.html

- ・平均正答率の「対全国比」では、小学校において国語B、算数B問題がやや低くなっており、中学校においては、28年度の結果に比べ、国語Bにおいて若干の改善がみられるものの、「対全国比」は、ほぼ横ばいです。
- ・平均無解答率は、小学校においては全国との差にあまり変化は見られません。中学校においては、数学B問題で全国との差がやや広がりましたが、それ以外については変化は見られません。

※平成29年度は、国の公表に準じて大阪市は整数、全国は小数で表記しています。
そのため、これまでのような全国との差ではなく、全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

平均正答率《大阪市と全国》

国語 算数・数学	H27				H28				H29			
	大阪市	全国	全国との差	対全国比	大阪市	全国	全国との差	対全国比	大阪市	全国	対全国比	
小国	A問題	65.7	70.0	-4.3	0.94	69.7	72.9	-3.2	0.96	71	74.8	0.95
	B問題	62.5	65.4	-2.9	0.96	54.6	57.8	-3.2	0.95	53	57.5	0.92
小算	A問題	72.8	75.2	-2.4	0.97	75.3	77.6	-2.3	0.97	75	78.6	0.95
	B問題	42.8	45.0	-2.2	0.95	44.7	47.2	-2.5	0.95	42	45.9	0.92
中国	A問題	73.5	75.8	-2.3	0.97	72.5	75.6	-3.1	0.96	74	77.4	0.96
	B問題	63.6	65.8	-2.2	0.97	62.1	66.5	-4.4	0.93	68	72.2	0.94
中数	A問題	62.0	64.4	-2.4	0.96	60.0	62.2	-2.2	0.97	62	64.6	0.96
	B問題	40.1	41.6	-1.5	0.96	41.7	44.1	-2.4	0.95	45	48.1	0.94

平均無解答率《大阪市と全国》

国語 算数・数学	H27			H28			H29			
	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	
小国	A問題	4.5	3.6	0.9	5.4	5.3	0.1	3.0	2.8	0.2
	B問題	6.2	6.1	0.1	4.8	4.6	0.2	4.6	4.3	0.3
小算	A問題	2.0	1.8	0.2	2.0	1.8	0.2	1.8	1.6	0.2
	B問題	8.5	9.1	-0.6	7.0	7.4	-0.4	6.2	6.4	-0.2
中国	A問題	2.7	2.6	0.1	2.5	2.0	0.5	2.9	2.4	0.5
	B問題	2.7	2.2	0.5	5.7	4.4	1.3	5.1	3.8	1.3
中数	A問題	4.0	3.7	0.3	7.2	6.3	0.9	7.5	6.3	1.2
	B問題	16.1	15.3	0.8	16.9	14.7	2.2	14.5	11.7	2.8



児童質問紙



生徒質問紙



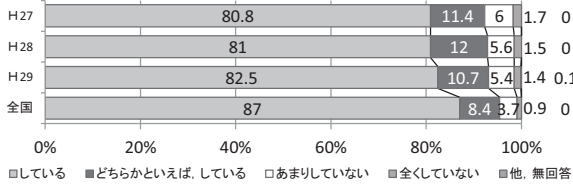
学校質問紙

■ 質問紙調査結果の概要 ※http://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/factsheet/17prefecture-City/513_osaka/index.html

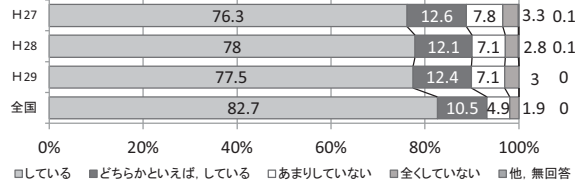
- ・「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、28年度と比べ、中学校は大きな変化はありませんが、小学校では「している」の回答が増加傾向にあります。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学校は大きな変化はありませんが、小学校で「当てはまる」の回答が増加しています。
- ・「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対して「している」と回答をした児童生徒の割合は、中学校でやや減少しているものの、小学校では増加傾向にあります。
- ・「学校のきまり（規則）を守っていますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに増加傾向にあります。
- ・「学級やグループで話し合う活動を取り入れましたか」という質問に対して肯定的な回答をした学校の割合は、小中学校ともに増加しています。
- ・「学習規律の維持を徹底しましたか」という質問に対して「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では増加傾向にあります。



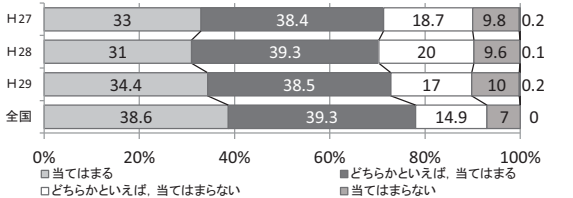
朝食を毎日食べていますか(小)



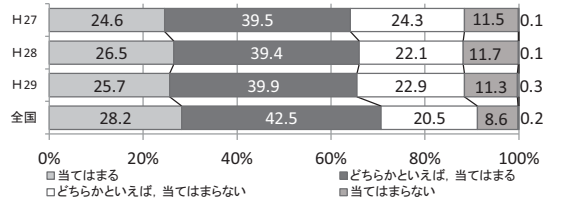
朝食を毎日食べていますか(中)



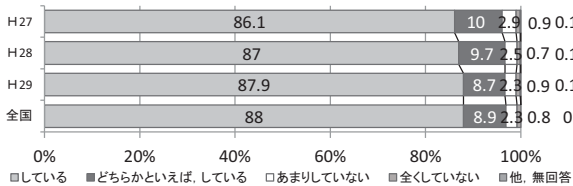
自分にはよいところがあると思いますか(小)



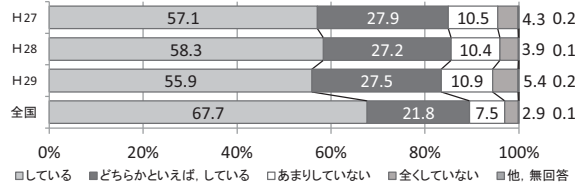
自分にはよいところがあると思いますか(中)



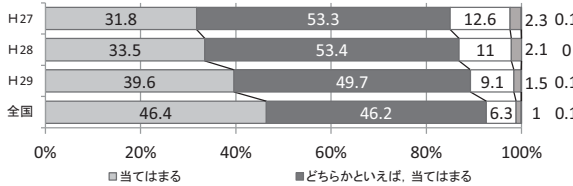
家で、学校の宿題をしていますか(小)



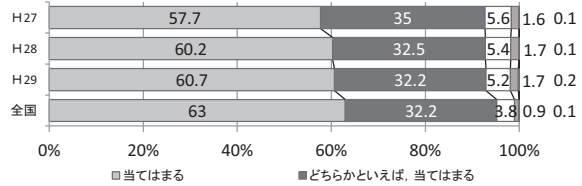
家で、学校の宿題をしていますか(中)



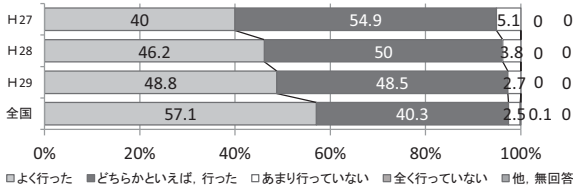
学校のきまりを守っていますか(小)



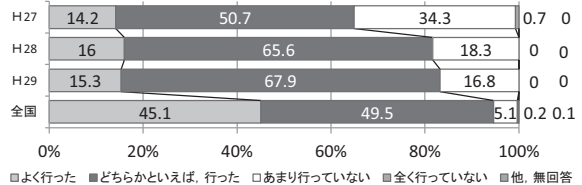
学校の規則を守っていますか(中)



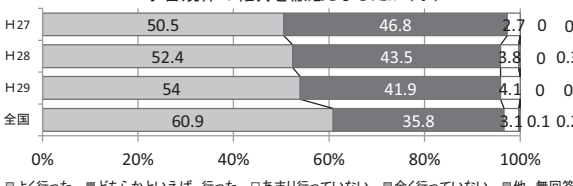
学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか(小)



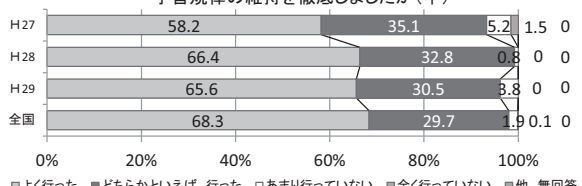
学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか(中)



学習規律の維持を徹底しましたか(小)



学習規律の維持を徹底しましたか(中)



※国が公表している大阪市のデータを参照しています。

小学校国語

A問題 平均正答率:71%(全国:74.8%) 平均無解答率:3.0%(全国:2.8%)

B問題 平均正答率:53%(全国:57.5%) 平均無解答率:4.6%(全国:4.3%)

分類・区分集計結果

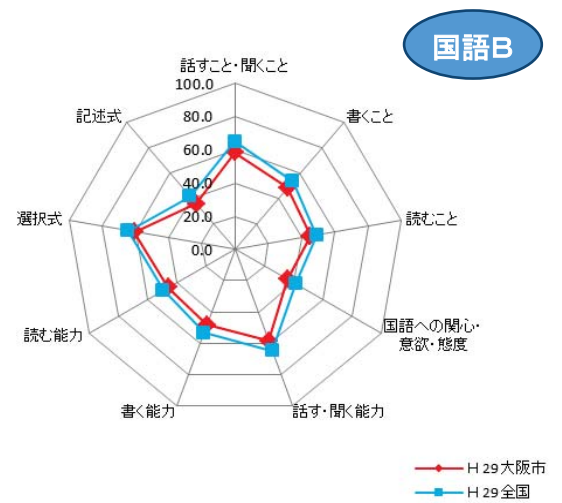
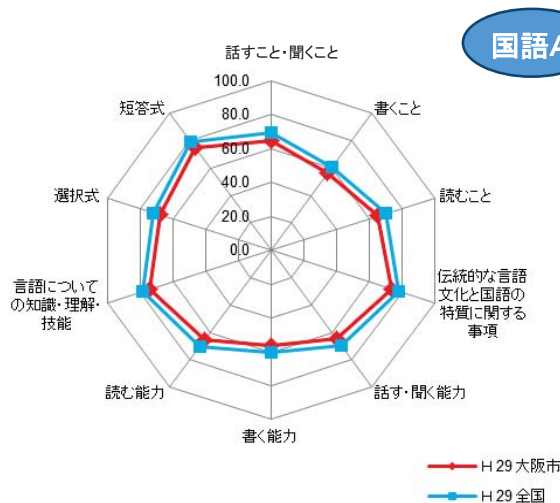
分類	区分	A問題(全15問)			B問題(全9問)		
		H29 対象 設問数	平均正答率(%)		H29 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H29 大阪市	H29 全国		H29 大阪市	H29 全国
学習指導要領の 領域	話すこと・聞くこと	1	64.6	69.2	3	58.4	64.9
	書くこと	2	56.2	60.6	5	48.3	53.4
	読むこと	3	65.2	70.2	3	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	74.0	78.0	0	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	3	35.9	41.7
	話す・聞く能力	1	64.6	69.2	3	58.4	64.9
	書く能力	2	56.2	60.6	5	48.3	53.4
	読む能力	3	65.2	70.2	3	45.5	49.2
	言語についての知識・理解・技能	11	74.0	78.0	0	—	—
問題形式	選択式	9	67.7	71.7	5	60.5	64.6
	短答式	6	75.0	79.4	1	64.1	69.2
	記述式	0	—	—	3	35.9	41.7

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「書く能力」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「読む能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【国語A】 ◇言語についての知識・理解・技能をみる「漢字を読む問題」・「ことわざの使い方の問題」についてがんばりが見られます。
◆書く能力をみる「手紙の後付けに関する問題」、言語についての知識・理解・技能をみる「俳句の良さを見つける問題」、「漢字を書く問題」に努力が必要です。
- 【国語B】 ◇話す・聞く能力をみる「目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す問題」にがんばりが見られます。
◆読む能力をみる「発言の意図を捉える問題」や、記述式の「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題」に努力が必要です。

小学校算数

A問題 平均正答率:75%(全国:78.6%) 平均無解答率:1.8%(全国:1.6%)

B問題 平均正答率:42%(全国:45.9%) 平均無解答率:6.2%(全国:6.4%)

分類・区分集計結果

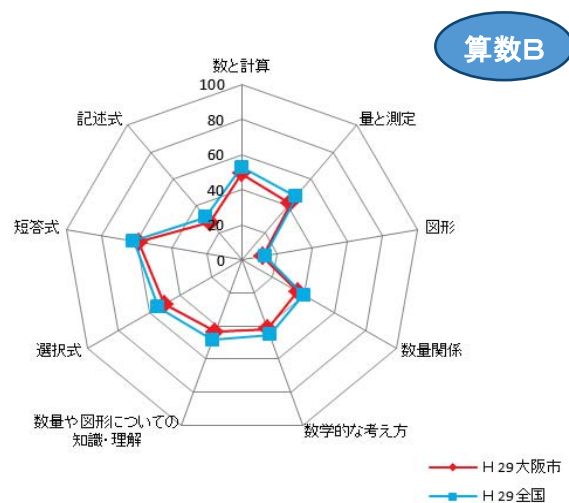
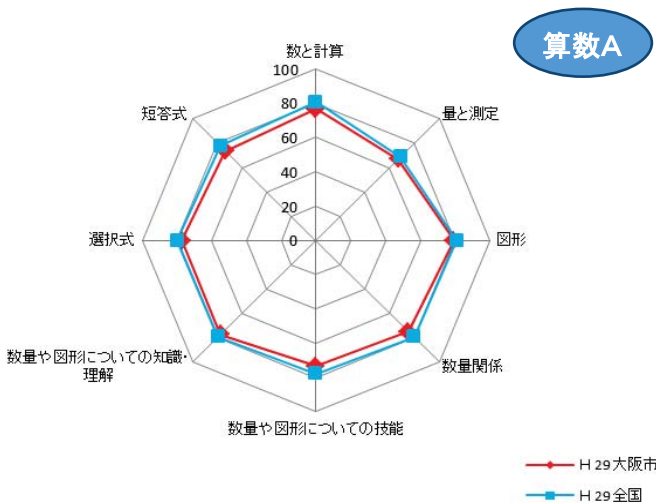
分類	区分	A問題(全15問)			B問題(全11問)		
		H29 対象 設問数	平均正答率(%)		H29 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H29 大阪市	H29 全国		H29 大阪市	H29 全国
学習指導要領の 領域	数と計算	8	76.7	80.6	5	49.2	52.8
	量と測定	2	66.8	68.8	2	42.0	47.0
	図形	2	79.3	81.1	1	11.7	13.2
	数量関係	5	75.0	79.6	8	36.1	40.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	0	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	9	41.9	45.4
	数量や図形についての技能	8	73.3	77.7	0	-	-
	数量や図形についての知識・理解	7	77.6	79.7	2	43.7	48.6
問題形式	選択式	7	77.0	79.6	3	50.3	54.1
	短答式	8	73.8	77.8	3	58.6	61.7
	記述式	0	-	-	5	27.6	31.6

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「量と測定」の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「図形」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【算数A】◇数と計算, 数量関係の「具体的な場面における乗法の問題」や数と計算の「小数の乗法の計算問題」にがんばりが見られます。
- ◆数と計算, 数量関係の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」や量と測定の「高さが等しい図形の底辺と面積の関係を理解する問題」に努力が必要です。
- 【算数B】◇数と計算の「適切な式を立てたり、示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現したりする問題」にがんばりが見られます。
- ◆記述式の図形, 数量関係の「基準量と割合を基に比較量を考える問題」や量と測定, 数量関係の「測定値の平均を求める問題」に努力が必要です。

中学校国語

A問題 平均正答率:74%(全国:77.4%) 平均無解答率:2.9%(全国:2.4%)

B問題 平均正答率:68%(全国:72.2%) 平均無解答率:5.1%(全国:3.8%)

分類・区分集計結果

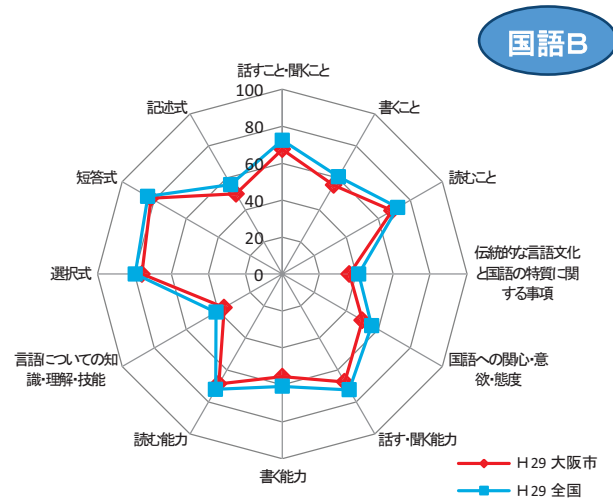
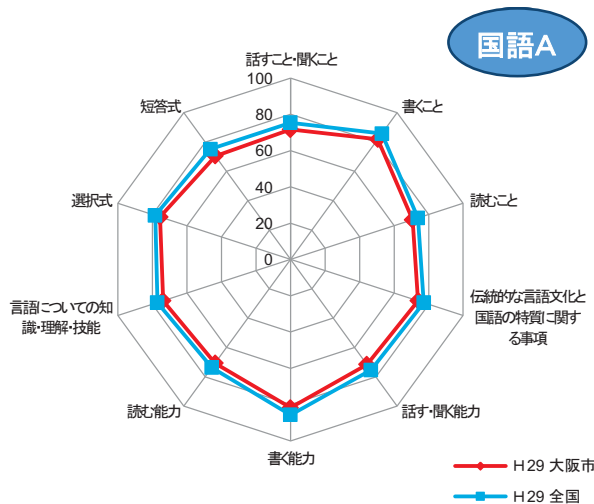
分類	区分	A問題(全32問)			B問題(全9問)		
		H29 対象 設問数	平均正答率(%)		H29 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H29 大阪市	H29 全国		H29 大阪市	H29 全国
学習指導要領の 領域	話すこと・聞くこと	4	71.6	75.4	3	67.5	72.4
	書くこと	4	81.8	85.7	4	55.6	60.8
	読むこと	6	70.7	73.8	4	68.7	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	73.9	77.2	1	36.3	41.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	3	50.1	55.9
	話す・聞く能力	4	71.6	75.4	3	67.5	72.4
	書く能力	4	81.8	85.7	4	55.6	60.8
	読む能力	6	70.7	73.8	4	68.7	72.1
	言語についての知識・理解・技能	18	73.9	77.2	1	36.3	41.4
問題形式	選択式	22	75.6	78.5	5	76.0	79.6
	短答式	10	70.5	75.1	1	82.1	84.1
	記述式	0	—	—	3	50.1	55.9

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「読む能力」「話す・聞く能力」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「言語についての知識・理解・技能」「書く能力」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【国語A】◇書く能力をみる「具体例を書き加える問題」や、言語についての知識・理解・技能をみる「漢字を読む問題」、「助詞の働きに関する問題」にがんばりが見られます。
- ◆話す・聞く能力をみる「相手に分かりやすいように適切な語句を選んで話す問題」や、読む能力をみる「描写に注意して、内容を理解する問題」に努力が必要です。
- 【国語B】◇話す・聞く能力をみる「目的に応じて資料を効果的に活用する問題」や、読む能力をみる「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する問題」にがんばりが見られます。
- ◆記述式の言語についての知識・理解・技能をみる「比喻表現に着目し、感じたことや考えたことを書く問題」、記述式の書く能力をみる「聞き手からの意見に基づいて、スピーチを書き直す問題」に努力が必要です。

中学校数学

A問題 平均正答率:62%(全国:64.6%) 平均無解答率:7.5%(全国:6.3%)

B問題 平均正答率:45%(全国:48.1%) 平均無解答率:14.5%(全国:11.7%)

分類・区分集計結果

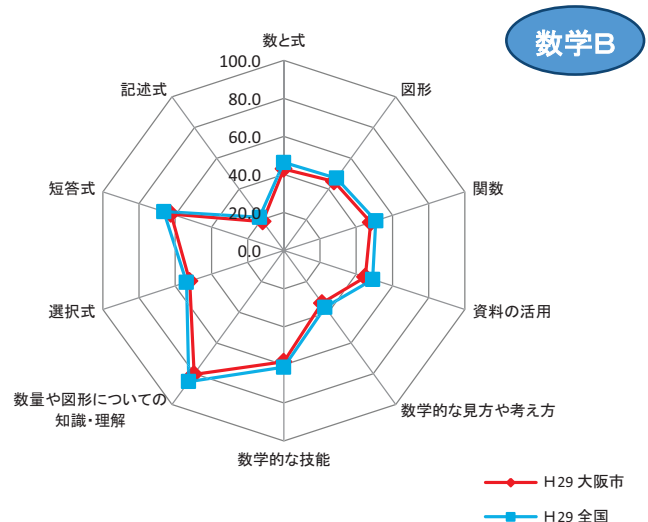
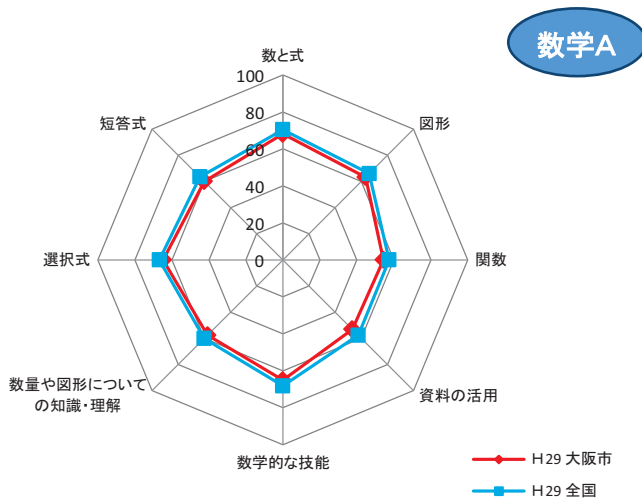
分類	区分	A問題(全36問)			B問題(全15問)		
		H29 対象 設問数	平均正答率(%)		H29 対象 設問数	平均正答率(%)	
			H29 大阪市	H29 全国		H29 大阪市	H29 全国
学習指導要領の 領域	数と式	12	68.1	70.4	3	42.9	46.3
	図形	12	63.2	66.0	6	44.9	47.1
	関数	8	54.4	57.4	3	48.0	50.8
	資料の活用	4	53.1	57.6	3	45.0	49.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	0	—	—
	数学的な見方や考え方	0	—	—	10	34.1	36.8
	数学的な技能	20	65.1	68.2	3	58.4	61.2
	数量や図形についての知識・理解	16	57.6	60.2	2	80.3	85.1
問題形式	選択式	13	64.7	66.8	4	52.0	53.8
	短答式	23	60.1	63.4	6	62.4	66.3
	記述式	0	—	—	5	18.9	21.7

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

※一つの設問が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

■A問題では、「関数」「資料の活用」等の項目で低い値を示しています。

■B問題では、「数学的な見方や考え方」「記述式」等の項目で低い値を示しています。



設問から見られる具体的な成果と課題

- 【数学A】◇数と式の「正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解できるかどうかをみる問題」や数学的な技能をみる「平行移動した図形をかく問題」にがんばりが見られます。
◆「関数の理解に関する問題」や資料の活用の「範囲の意味を理解する問題」に努力が必要です。
- 【数学B】◇短答式の「事象を数学的に考察する問題」や短答式の数量や図形などについての知識・理解をみる「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題」にがんばりが見られます。
◆記述式の数学的な見方や考え方をみる「2つの図形の関係を回転移動に着目して捉える問題」や「事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する問題」に努力が必要です。